
哀のうた

赤田サチ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

哀のうた

【Nコード】

N9756C

【作者名】

赤田サチ

【あらすじ】

いつもの下校途中、ふと思った“平和な日常”。ずっとこのまま
で悪夢から逃れ暮らしたいというわがまま。——これ以上他人の幸
せを壊すのは嫌……。 哀の一人称です。

（前書き）

灰原さんを主人公にしたのは、初めてでしょうか。

いつもの様に、私の前にはあの三人。いつもの様に、私の隣には彼。そしていつもの様に見慣れた通学路を歩く。

「オイッコナン！ この後公園でサッカーしようぜっ！」

小嶋くんが、私の隣にいる、頭の後ろで手を組みながら歩く工藤君に話しかけた。

「ああ、いいぜ……」

不貞腐れたように返事をしても、どこか楽しそうな彼の顔は、『ガキに交じってお遊びなんか……』と普段は文句を言っている、何だかんだ言って楽しんでいる……という彼の素直でない性格を綺麗に物語っている。

授業を終え、放課後の予定を話しながら帰るこの光景もいつもと同じ。

こんなにも平和な“いつも”に、私は慣れ親しんでしまった。私は、そんな事が許される人間ではない。自分がただ平和になっただけならまだいい。今の状況は、自分が平和になった事で周りの人間が不幸になっているという状況。……探偵団のみんなが笑っている。私はその無邪気な笑顔を壊すきっかけとなる、死神のような人間。

壊したくない、その笑顔。でも既に壊してしまった彼の人生。ここから私が消える事が、彼らにとっての一番の幸せ。そんなのは分か

っている。……でも、私の心の隙間を少しずつ詰めてくれるパズルのピースのような彼らの言動が、心の隅にある『ずっとこのままでいたい』というわがママが心の中を占める駒となる。

「私って本当に自己中ね……」

思っていたことをおもわず口に出してしまった。自分ではほんの小さな声で呟いたつもりだったのに。

「えっ？」

四人が一斉にこちらを向いてきた。聞こえていたのね……。

「なあに言ってたんだオメエ？」

隣からの呆れたような視線。

「哀ちゃんは全然自己中じゃないよっ！」

前からの必死な表情。

「そうですよっ灰原さんは寧ろ大人ですよっ！」

本物の小学一年生にしては本当に頭がいい、円谷君からのフォロー。

「……自己中ってなんだ？」

こっちが呆れるような同じく前からの発言。

そんな風に優しくされればされる程、私はどんどん自己中心的にな

る。あなたたちは知りもしないでしょうね、私のこんな気持ち。

「ありがとう。ちょっと言ってみたくなっただけ。……それと小嶋君、自己中の意味だけど……自分で調べなさい」

そう言って、私達は純粋な小学一年生三人と別れた。

二人で歩いていた私達は、暫し無言だった。彼には、私の心の内は見えたのだろうか。だから探偵は怖い。……そんな事を考えていると、私の目に鮮やかな黄色が映った。

「……………タンポポね」

広場に広がるタンポポの花。綺麗だ。本当に太陽のようで、何だか

私には眩しすぎた。そのパワーを私にも少し分けてもらおうかと、タンポポの集団の中に躊躇いがちにそつと手をさし入れた。

「……………やめたっ」

「へっ?」

隣で私の様子を見ていた彼は間抜けな声を出す。私はタンポポを摘むのをやめた。たくさん仲間の中で輝いている一人のタンポポの平和を、自分の手で壊すのが躊躇われた。これ以上他人の幸せを壊したくなかった。

タンポポの平和なんて……と人は思うかもしれない。でも私は思う、道端に咲く花にだって、ただ育っているように見える草にだって、人生はある。平和はある。他人の平和を壊した私だからこそ、こういう事に敏感になっているのかしら。

「……………さ、いきましょ? 工藤君」

「あ、ああ」

さっき間抜けな声を出していた彼は、今度は戸惑いがちに返事をした。いくらあなたでも、今の私の気持ちまでは読めないでしょ? そう思い、僅かに笑みを浮かべ工藤君をちらと見れば、彼は私とは

正反対に、首を傾げ不思議そうな顔をしていた。

（後書き）

お読み頂き、有難う御座いました！ いかがでしたでしょうか？
……因みに季節は春です。何故このタイミングで投稿する！？
という感じです……（*―*）

今度、組織話を連載で投稿しようかと考えています。自分なりに推理してみようかと……。只今、ない頭を捻って頑張っています。あの方どうしよう！？ 悩みます。……と、ここまで話を広げましたが、あくまで“予定”です（^―^；）よしっ頑張れ自分っ！

では、またお会いできるのをお待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9756c/>

哀のうた

2010年10月10日05時41分発行